



心の時代



昨年、辻本理事長をお招きして行うことができなかったコーチング研修を行いました。保護者の皆様も参加していただき、ありがとうございました。辻本先生は今年、七十六歳になられます。矍鑠とされていて元気に溢れています。今回は、保護者様が多数参加されるということで、初級中級講座というくくりから子育てコーチングに移行した形で進みました。

毎回参加するたびに、気づきがあります。今回は「人を変えることはできない、自分が変わるしかない」という言葉でした。子供に限らず、人に対して「こうなってくれたらいいのになあ」と思うことはございませんか。私はよくありました。今でもそうですが、そう思っているとそういった言葉がいただけるのだなあと思います。それは「自分を基準にして無意識のうちに考えているからそうなる」という指摘も以前も受けていたのですが、いつの間にか忘れてしまい、「もっとこうなったらいいのに」と思ってしまう自分がいます。「のに」が出てきたら要注意と自分に言い聞かせていたにもかかわらず。そんなときに、自分の今の状態に等しいことを見たり聞いたりするというユング（心理学者）の共時性を改めて思い起こしました。

私は辻本先生にコーチングを習う以前に別のところでもコーチングを学んでいました。コーチングを学ぼうと思ったのは私達塾の講師は話す仕事です。どうも私は話すことはできても聴くのが下手だなあと感じたことがあったからです。そのセミナーでは「過去の嫌なことを忘れて未来を考えていきましょう」とのことでした。確かにコーチングは未来のことを考えてそこから何をするのかを自分でコーチの人の助けを借りながら導き出すものです。しかし当時、私は過去のトラウマから抜け出せないでいました。過去のトラウマを忘れることなどできなかったのです。私は何か悶々としたものを感じていたところに辻本先生のコーチングセミナーがあり、先生にそのことを質問をしたところ、「過去も自分だよ。過去は変えられないけれど、過去の出来事に対して見方を変えることはできる」とおっしゃったのです。先生は塾生1万人の塾を経営されていました。ところが、上場をするために合併を繰り返すうちに思うようにいかないことが起こり、会社は倒産してしまいました。五十代半ばでうつ病、引きこもりを経験されたのです。先生は当時を振り返り「自分はそれまではかなり傲慢な人間で、優しさがあまりなかったことに気が付きました。病気になって周りの人が優しく接してくれたからそれまで気が付かなかつた優しさに気がついたのです。私は過去を反省し、人に優しくなることができました」と話されました。「過去の嫌なこと、トラウマになっていることさえもプラスに捉えることができるのだ」とそう感じました。その時「過去があるから、未来がある、未来があるから今のわたしがいる」という言葉が私の中で浮かんできました。セミナーが終わると私は辻本先生に御礼を言いたくなりました。そうして保護者様に、塾の仲間にもお話願えませんかと初対面にもかかわらず言ってしまうしました。このことがきっかけで先生に理事長になっていただき社団法人スクールコーチング協会の始まりとなりました。

先生が元気な理由は、未来の夢、やりたいことを見つけてそして今の自分へメッセージを送っているからです。先生は食事が満足に行えていない子どもたちのためにNPOを立ち上げ「こども食堂」を運営されています。その中で、学校に行けなかった子達を多く見られたとのことでした。それを見た先生は「放課後デイサービス」を開始させるということを決意されたのです。何というパワーでしょう。「人は何らかの使命感にかられていき、動く」とよく言われますが、先生は次から次へと「自分がやらないと」ということを実践されています。もちろんコーチング、カウンセリングの実践もそうですが、後輩を育成しています。私はそんな先生の姿に啓発され、膝がいたいと言っている場合ではないぞと自分に言い聞かせる気持ちが湧いてきました。そうです。自分が変わるしかないのです。